

J Aバンク補助教材の概要等について

1. J AバンクとJ Aバンクアグリ・エコサポート基金のご紹介

(1) J Aバンクについて (<https://www.jabank.org/>)

J Aバンクは全国に民間金融機関として最大級の店舗網を展開しているJ Aバンク会員（J A・信連・農林中央金庫）で構成するグループの名称です。

J Aバンクでは、組合員や地域利用者、企業等の皆様のお役に立つ金融サービスの提供に努めています。

(2) J Aバンクアグリ・エコサポート基金 (<http://www.jabank-aes.or.jp/>)

本教材の発行者であるJ Aバンクアグリ・エコサポート基金（以下「当基金」といいます）は、J AバンクのCSR事業である「J Aバンクアグリサポート事業」の実施主体として平成19年10月に設立されました。

当基金では、本事業における全国向け補助教材の発行や各都道府県のJ A等が制作する教材本制作への助成事業等を行っております。

なお、J Aバンクアグリサポート事業の取組みについては、農林中央金庫のウェブサイト (<https://www.nochubank.or.jp/>) に掲載されている「サステナビリティ報告書」の中でも紹介しております。

2. J Aバンク補助教材「農業とわたしたちの暮らし」のご紹介

(1) 概要

小学校（5年生を中心とする高学年）の授業で活用していただくことを目的に、食農教育・環境教育などを基本テーマとした補助教材です。平成20年度から全国の小学校に配布させていただいております。

私たちの生活に欠かせない「食」と「農業」、また「環境」と「農業」の密接なかわりや、各家庭に食を届けるための流通、農畜産物の全国の産地等について、イラスト・写真・グラフをふんだんに使いながら総合的に学習することで、農業に対する理解を多面的に広げていくことを狙いとしております。社会科を中心に総合的な学習、家庭科等の内容についても取り入れております。

(2) ご活用方法

- ・ 補助教材と一緒に授業における具体的な指導方法等を記した教師用の指導書を贈呈いたします。
- ・ それぞれ単元や章ごとに独立したテーマを設定しておりますので、個別に取り上げていただくことも可能です。
- ・ 子どもたちが関心をもって自ら考え、話し合い、まとめられるよう構成しています。授業のなかで、教科書と組み合わせでご活用いただけます。
- ・ 日本全体の農業を扱っておりますので、地域の農業を学習する教材と一緒にご活用いただくことで、農業に対する理解を深めていくことができます。

【ご参考】 J Aバンク補助教材「農業とわたしたちの暮らし」について



【児童用】



【教師用】

【重要】DVD配布は2023年度版をもちまして終了いたしました

DVDの制作・全校配布は 2023年度版をもちまして終了いたしました。

1. 2024年度版・JAバンク補助教材 主なポイント

2019年度版より新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を踏まえ、子どもたちが話し合いながら、自己の考えや理解を深めることができるようになっていきます。今回の改訂では、DVD配布終了および教育現場でのデジタル化の動向をふまえ、DVDと同内容の動画に遷移する二次元コードを追加しました。また、単元ごとの「まとめる」の内容に連動したワークシート（PDF）を新たに作成し、これに遷移する二次元コードを教材に追加しました。この他、「環境に配慮した農家の取組」をより分かりやすく記載したり、教育現場から要望の多かった「カントリーエレベーター」「フードマイレージ」を追加したりするなど、一部改訂しています。

主に社会科の第5学年の学習内容との関連を図りながら構成されており、家庭科や総合的な学習の時間などでも活用することができます。

2. これまで本教材を活用していただいた先生・児童からの声

(1) 先生方からのアンケート結果

J Aバンクの補助教材に対して全国の先生方からアンケートをいただきました。そのなかからご意見の一部をご紹介します。

- DVD は真剣に見ていましたし、資料も活用させることができました。教科書+αの情報がたくさんありました。子どもたちも興味をもって学習に活用できました。
- 学習内容が米づくりの単元とかぶってタイムリーで使えた。資料集にのってない資料もあったため。
- 映像は児童の記憶に残りやすいです。とくに農業の未来(農業会社)のところは反応がよく、自分も働いてみたいということばがたくさんきかれました。「こうすればいいのか!!」と未来に明るい展望をもった児童が出てきました。
- 児童は農業の工夫や努力をよく知ることができたとともに、農家の方やかかわっているおかげで食べることができているのだと感謝する気持ちになっていました。
- 本校は農業のさかんな地域にありますが、子どもたちが接する機会は多くありません。様々な場面での食農教育は日本全体の将来に関わる大切な取り組みだと思います。
- 今回はこちらの教材と合わせてJAの方にご協力いただき、校区内のカントリーエレベーターの見学をさせていただきました。こうして農業に関わる方の生の声が聞けると、ありがたいです。

(2) 児童感想文の概要

J Aバンクの補助教材に対して全国の児童から感想文をいただきました。そのなかから感想の一部をご紹介します。

- 私は、この授業で農業の大変なことを知りました。だけど、大変なことだけではなく、農業の良いところを学びました。また私のおじいちゃんはお米を作って家族で食べています。最初は農業の大変さも知らずに食べていました。ですが、今は農業の大変さも知ってお米のありがたさを感じるようになりました。そのことを知った私は、お米を作っているおじいちゃんに「お米を作るのは大変じゃないの?」と聞いたら「それは、大変だけどおいしいと言って食べるのを見るとうれしいから」といっていて今、農業をやっている人はこんなふうにいるのかなと感じました。
- JAのみなさんが農家の人達と協力して、みんなに美味しい米をとどけていることがわかりました。とくに、自然に合わせて活動していることがとてもすごいと思いました。これからも、JAのみなさん農家のみなさんにもっともっと、応えんしたい、気持ちになりました。
- 私はこれを勉強して、野菜、果物、らく農、稲作では、どれもとても手間がかかっていることを初めて知りました。自分がいつも食べているものには、農家の人たちの努力や愛情がこめられているんだなと思いました。人手不足だと知って私も農業をやってみたいなと思いました。いつもおいしいものをありがとうございます!!これからもがんばってください!!
- キャベツのしゅうかくの時は、夜からしゅうかくしているのがびっくりしました。私はいつもキャベツが食べられているけれど、私が食べるまでにたくさんの方が大変な思いでやってくれている事を知って、感しゃして、キャベツを食べたいと思いました。

以上